

中国の南京国際セミナー報告書

罗萃萃（南京航空航天大学）

私は今回、通訳としてこのセミナーに参加できて、大変、幸いに思う。今回のセミナーについての報告書を書こうと思い、まず、10月7日から10日までのことをひとつひとつと思い出してみた。涙ぐんで、胸が熱くなった。そして、邦子先生、綾さん、アルマンド先生及び参加者の皆さんの顔が目の前に浮かんできた。皆さんと別れたばかりだが、懐かしくてまた会いたくなり、もっとゆっくり話したいと思っている。いっしょに過ごした4日間は、短かったが貴重な一時だったと、いっそう深く感銘を受けている。4日間、私達は、ともに泣き、ともに笑い、ともに不思議な心理的变化を一つ一つ体験してきた。悲しみ、喜びを分かち合っている時は、みんなで同じ事を考え、同じ事を願い、同じ祈りをしていた。その場面を思い出すと、とても幸せな感動を感じる。皆さんも、おそらく同じだろう。みんながそういう体験を持って帰れることは、とても素晴らしいことだと思う。それこそ、中国語の「心心相映」に当たるものだ。この国境を越えた「心心相映」は、どんなに素晴らしいものだろう。

私は、日本語を勉強して以来、多くの日本人と付き合ってきた。そして、多くの日本人と友達になっている。その中には、仕事で知った官庁の役人たち、企業家の人々、学者の方々、お年寄り、主婦、会社員、公務員。また、留学している間に、勉強で付き合ったクラスメートの学生のみなさん。特に、留学中、多くのやさしく温かく助けていただいた日本人のみなさん。日本語と関わる仕事をして三十年ぐらい生活してきたから、何百人の日本人と付き合ってきた。なかには、とても長くつきあっている仲のよい友達もかなりいる。

日本にいたとき、寂しくて困った時、多くの方から助けられた。ある日本のおばあさんは、雪のなかで、私を一時間も待ってくださった。おばあさんの姿を思い出しては目元が熱くなり、胸がいっぱいになる。また、学校の国際相談

室の先生もやさしくしてくださり、いつも胸を打たれたものだ。それでも、今回、たった4日間だが付き合っただけの感動は、ちょっと違うもので、今まであまりなかったものだ。つまり、助けをもらって感じた感動と違うものだ。

今回は、双方の間にある壁が取り外された感じがした。互いに見つめ合う眼は、とても素直で、優しく、穏やかで、友情への望みのある眼だった。中国では「君子之交淡如水」という言葉がある。君子間の付き合いは、水のように清らかで、なんの汚れもないという意味である。

今回のプログラムを通じて、中日国民の間に再び、君子のような友情ができるだろう。このような友情は昔あったが、長い間消えていた。私は、この友情ができそうに思えて、大変感動したのである。この新しい感動は今までなかったものだ。おそらく、今回のプログラムを通じて、互いに例のトラウマを心から取り除くことができたからだろう。みなさんが見つめ合った眼は、あんなに素直で熱心なので本当に感動させた。もし、政府間でも、国全体の間でも、このようになればなんとすばらしいことだろう。これから、中日両国国民は、互いに協力し合って、地球を守り、正義を保てば、戦争で利益をとろうとする好戦者を誰も相手にしなくなるだろう。

日本では、60歳以下の国民は、元日本軍の罪をほとんどよく知らないようだ。それに対して、中国人なら誰もが、もと日本軍の暴行をよく知っている。というのは、90年代まで、中国の家庭では、ほとんど二、三世代同居して大家庭が多かった。しかも、平屋が多く、クーラーのような電気製品も少なかった。そのうえ、互いに家庭訪問するのが好きだった。特に、夏になると、人々は家を出て、外で物知りの年長者を囲んで昔話を聞くのがひとつの楽しみだった。中国人が持っている戦争の記憶の多くは、このように子供の時から、隣の年長者やおじいさんとおばあさんから聞かされて育ってきたものだ。また、あの戦争の歴史はあまりに悲惨で忘れられないものなので、歴史のことは、よく中国の文学作品や映画芝居に登場し、普段、人々はよく読んだり見たりしている。今でも、親たちは、娘の留学や仕事で日本へ行くことを心配すると思う。

実は、私自分自身も、中日友好協会で仕事をすることがあるので、多くのすばらしい日本学者、婦人と知り合い、そして、日本のマスコミ規制や教育などの原因で、多くの若者は中国人が知り尽くした日本軍の侵略暴行を全然知らな

いことを知った。また、中国に来て南京のことを知った日本人は、老若問わず、帰国してから、必ず、他の人に伝えるという何かの行動をするようになっていくことも知っている。

6年前、私は一人の日本女性作家の通訳として、彼女といっしょに一週間をかけて南京南の周辺を歩き回った。地元の75歳以上のお年寄りに会っては聞き取りをしていた。悲惨な話をいっぱい聞かされ、背筋が寒くなり、鳥肌の立つ毎日だった。ある日、ある家に行くと、寝たっきりの92歳のおばあさんがいた。私達の目的を聴くと、彼女は急にベッドから身を上げたが、でも、息子が私達を阻止するのを見て、また、無力に静かに横になった。彼女の口の利けない絶望的で無力な目つきは忘れられないもので、今、思い出しても胸が痛くなる。

これらのことは、多くの日本人は詳しく知らなかろう。南京に来ないと、日本軍がどんな残忍な暴行をしたかも想像できなかろう。そして、なぜ、中国人は抗日の歌を国歌にしたのかも理解できなかろう。

マスコミや教育に歪みがあれば、政府は政治目的のために歴史の真相を隠そうとしたら、普通の日本人は歴史の真相を知ろうとしても、知る道もない。むしろ、うそつきの報道を聴かされ、どれを信じたらいいかと人々は迷ってしまうだろう。

しかし、今、中日の普通の人々は、仕事のために、付き合わざるを得ない。多くの場合、片方では、怒りや憎みを心に会いに行く。片方では、うすうすと相手からの嫌味を感じながら、わけが分からない。でも、付き合って仕事をしなければならぬから、互いに我慢して仕事をしている。仕事で日本に行っても、南京の話題は、知らないところだと言って避けてしまう。両方とも仕事のために、心にある苦しみを我慢している。平気を装い、心でははっきり感じていればいるほど苦しいことだろう。

2007年12月、渡辺夫婦は南京大学の劇場で、演劇で戦時中の各家庭のことで自分の体験を演じた。本当に一生懸命に自分のぼろぼろになった真心を手にして中国人に見せようとする劇で、強い衝撃を受けた。というのは、まだまだ、良識のある日本人がいること、多くの日本人はいろいろな形で謝罪をしていることを信じていなくて、日本人にあっては区別せずに一様に恨んでいる中国人

もいる。もし、今でも、邦子先生や綾さん、渡辺夫婦のようなすばらしい日本の方を見て、わけを聞かずに嫌な日本人だと一様に扱ったらなんと悲しいことだろう。

邦子先生、綾さん、渡辺夫婦のような方は、真相の知らない日本人や家族に白目で見られ、疎外されることを怖がらず、右翼の恐喝を怖がらずに、戦争の真相に直面していろいろしていることは、とても勇気、正義心の必要であることで、すばらしいことで、感心すべきことだ。中日両国の人々が、みんな、互いにトラウマをすっかり癒し、サングラスをかけずに、素直に見合って、正々堂々と話したいことを思い存分に話すことができれば何と良いことでしょう。

今回、アルマンド先生のおかげで、ドラマセラピーや表現アーツの手法を使い、参加者のみなさんは、何とか、互いに、トラウマを一応癒しあい、暖かく優しく素直に見合って、楽しく話しあえるようになった。人数が少ないけれども、でも、本当に曙が見えてきた。本当に嬉しく、両国の真の友好を信じられるようになった。

最後だが、初めの時、会場の椅子の並べ方をみて、いったいこれから、何が始まるのだろうと不思議で可笑しく思ったが、最後の日、その並べ方をみて、懐かしい思いをした。これからも、皆さんといっしょに、同じ事をもっと多くのの人々と一緒にやっていきたい。

关于中国南京国际研讨会的报告

罗萃萃（南京航空航天大学）

这次我是作为翻译参加这次研讨会的。当我准备提笔写参加本次研讨工作坊的报告时，刚想好好回忆10月7日—10日经历过的各个场面，不觉眼睛湿润，心中油然涌出一股暖流。眼前浮现出了邦子、綾、阿尔曼德以及全体成员的面孔。虽然才和大家分开，但很想赶快见到大家，再好好谈谈心里的感受。此时感到虽然大家仅在一起渡过的是短短的四天，但觉得那是特别宝贵的四天。四天中，大家一起痛哭，一起欢笑，一起体验着心理每一个奇妙的变化。每当大家分享快乐和分担悲伤时，大家一起考虑同样的事情、祈祷同样的愿望。每当想起这些场景，